

■保守・点検上の注意

危険



感電注意

・有資格者以外の電気工事は法律で禁止されています。
 ・工事・点検時は主幹ブレーカを必ず切ってください。感電及び短絡による人身事故の恐れがあります。



火災の危険性

・導電部の接続ねじはP1施工上注意内「表1. 推奨締付けトルク」の範囲内で定期的増締めしてください。ねじが緩んでいると発熱し、火災の恐れがあります。
 ・外部信号や連動回路により、突然動作することがあります。電源や信号をOFF状態にして作業をしてください。
 ・主幹が漏電遮断器の場合、保守点検時にはテストボタンによる動作確認をしてください。

注意



感電注意

・改造等をしたことにより生じた事故については、一切責任を負いません。
 ・保守点検時に取外した端子カバー・保護カバー・相間バリア等は必ず元の位置に戻してください。感電・短絡事故の恐れがあります。
 ・線間での絶縁抵抗測定は漏電ブレーカの場合や不具合の生じるおそれのある機器（回路）がある場合はそれを外して電線間で行ってください。
 ・定期的に、電気工事会社に点検依頼をしてください。定期点検をしないと事故の原因になります。
 ・保守・点検は、専門知識を有する人が上位遮断器を「OFF」し、電気がきていないことを確認して行ってください。感電の恐れがあります。

■付属品

EB33, EB53, EB63, EB103, EB153につきましては付属品はございません。

機種名	品名						
	絶縁バリア	圧着端子	密閉穴栓	アースボルト	六角ボルト・ナット	平座金	バネ座金
EB223, EB253	2 *1	3	-	-	-	-	-
WEB30, WEB50, WEB100 CWN, CWE	-	-	1 *1	1	-	-	-
WEB200	-	3	1 *1	1	-	-	-
WEB400, WEB600	-	-	-	-	各3	6	3

*1: 施工完了後、取付けてください。

施工業者名

TEL

施工年月日 年 月 日

※施工終了後、施工業者名欄にご記入ください。

点検年月日	年 月 日	年 月 日	年 月 日
	年 月 日	年 月 日	年 月 日

※点検時にご記入ください。

★ この説明書に用いた図は代表例であり、お手元の商品と一致しない場合があります。
 ★ 警告表示がはずれたり、破損した場合は、警告ラベルの発注をお願いします。
 仕様等、お断りなしに変更することがありますのでご了承ください。
 また、ご不明な点がありましたら弊社お客様相談室にお問い合わせください。 この取扱説明書の内容は2011年 5月現在のものです。



エンクローズブレーカ(EB・WEB) コンセント盤 (CWE・CWN) 施工説明書/取扱説明書

このたびは、弊社製品をご採用いただきまして誠にありがとうございます。
 施工前に必ずこの説明書をよくお読みの上、正しく施工してください。
 また、施工後は施主様に商品説明を行ってください。
 尚、保守・点検の際も活用しますので、施工説明書・取扱説明書は所定欄に施工業者名を記入の上、まとめて施主様にお渡しください。
 ご使用前に必ずこの説明書をよくお読みの上、正しくお使いください。
 (この説明書は、必ず保管しておいてください。)

安全上のご注意

施工、使用（操作・保守・点検）の前に必ずこの説明書とその他の注意書きをすべて熟読し、正しくご使用ください。機器の知識、安全の情報そして注意事項のすべてについて習熟してからご使用ください。この説明書では、安全注意事項のランクを「危険」「注意」として区分してあります。

危険	取扱いを誤った場合に、危険な状況が起こりえて、死亡又は重傷を受ける可能性が想定される場合。
注意	取扱いを誤った場合に、危険な状況が起こりえて、中程度の傷害を受ける可能性が想定される場合、及び物的損害だけの発生が想定される場合。

なお、**注意**に記載した事項でも、状況によっては重大な結果に結びつく可能性があります。いずれも重要な内容を記載していますので必ず守ってください。

■施工上の注意

危険



感電注意



火災の危険性

・有資格者以外の電気工事は法律で禁止されています。
 ・内線規程等の法規を遵守して、正しい工事を行ってください。
 ・工事・点検時は主幹ブレーカを必ず切ってください。感電及び短絡による人身事故の恐れがあります。
 ・外部信号や連動回路により、突然動作することがあります。電源や信号をOFF状態にして作業をしてください。
 ・配線は適合した電線・圧着端子及び圧着工具を使用してください。発熱・火災の恐れがあります。
 ・正しい配線工事をしてください。誤結線があると発火・感電・故障の原因になります。
 ・導電部の接続ねじは、表1の推奨締付けトルクで確実に締付けてください。また、工事終了時に全ての導電部のねじを必ず増締めすると共に、定期的に増締めしてください。ねじが緩んでいると発熱し、火災の恐れがあります。
 ・接地線は接地端子に確実に接続してください。接地工事に不備があると感電の恐れがあります。
 ・取付工事終了後、電源側及び負荷側端子間の電圧確認と、テストボタンによる動作の確認をしてください。

表1. 推奨締付けトルク

ねじサイズ	締付トルク (N・m)
M4	1.2~1.6
M5	2.0~2.5
M6	3.0~4.0
M8 *1	5.5~7.0
M10 *2	13.0~20.0
M12 *2	40.0~50.0

※1. ドライバー以外の工具で締付けるねじは 8.0~13.0N・m。

※2. ドライバー以外の工具で締付けるねじに適用する。



必ずアース線を接続せよ

⚠ 注意



感電注意

- ・改造等したことにより生じた事故については、一切責任を負いません。
- ・設置環境は下記条件でご使用ください。

- ・周囲温度：-5～40℃
かつ、24時間の平均値35℃以下。
- ・標高：2000m以下。
- ・相対湿度：45～80%で製品内部の結露がないこと。
- ・周囲の塵埃、煙、腐食性又は可燃性の気体・蒸気、及び塩分による汚染が発生しない場所。
- ・製品に対して、外部に起因する振動がない場所。
- ・ブレーカの操作が容易にできる場所。

- ・ごみ、コンクリート粉、鉄粉、虫などの異物及び雨水などが製品内部に入らないように施工してください。火災や動作しない恐れがあります。
- ・配線作業は、上位遮断器を切（OFF）にし、電気がきていないことを確認して行ってください。感電、けが、火災の恐れがあります。
- ・電線の接続は、各極の端子に電線が平行に接続されるように、事前に電線を成形した上で端子ねじを確実に締付けてください。また、遮断器の端子に電線の重量が過度に加わらないように、電線を固定してください。
- ・本体の定格にあった電源に接続してください。不動作及び故障の原因となります。
- ・製品の設置は取付面の水平を確認し、使用欄に指定されている全ての箇所を適切な太さのボルトで堅牢に行ってください。設置に不備があると事故の原因になります。
- ・製品を堅牢に取付けてください。製品の自重により壁面から脱落する恐れがあります。
- ・製品への通線穴加工時、内部に切粉やゴミがかからないよう養生等の処置をしてください。切粉やゴミがかかると感電・故障の原因になります。
- ・屋外では使用しないでください。漏電や故障の原因になります。
- ・製品内機器への電線配線経路に配慮（電線を曲げて水が伝わらないようにする。電線を伝わって水が滴下する位置に注意）してください。結露した水や漏水が電線に沿って製品内機器へ入ると故障の原因となります。
- ・水抜孔は電線や電線管等で塞がないでください。何らかの原因で製品内に水が侵入した場合、漏電や故障の原因になります。
- ・電源・負荷の配線は相線・線式・電圧・容量を確認のうえ施工してください。発熱・火災・事故の原因になります。
- ・線間での絶縁抵抗測定は漏電ブレーカの場合や不具合の生じる恐れのある機器（回路）がある場合はそれを外して電線間で行ってください。
- ・施工時に取外した端子カバー・保護カバー・相間バリア等は必ず元の位置に戻してください。感電・短絡事故の恐れがあります。
- ・WEB・CWE・CWN機種は扉の上下部にそれぞれ、輸送時用のプッシュが取付いております。設置後は取外してください。

■ 使用上の注意

⚠ 危険



感電注意

- ・有資格者以外の電気工事は法律で禁止されています。
- ・母線や端子部に触れないでください。短絡事故、感電の恐れがあります。
- ・自動的に遮断した場合は原因を取除いてからハンドルを「ON」にしてください。感電・火災の恐れがあります。

⚠ 注意

- ・内線規程では「連続負荷を有する分岐回路の負荷容量は、その分岐回路を保護する過電流遮断器の定格電流の80%を超えないこと（勧告）」と規定されています。

■ 動作説明

- ・サーキットブレーカ
過電流や短絡事故が発生した場合
自動的にトリップし電路を遮断します。
- ・漏電ブレーカ
漏電や過電流・短絡事故が発生した場合
自動的にトリップし電路を遮断します。

ブレーカがトリップした場合、一度「OFF」または「RESET」側にハンドルを戻してから再投入してください。

■ 外部操作ハンドル取扱説明（WEB・CWE・CWN機種のみ）

- ・ハンドルの施錠について
操作ハンドルの取手は「ON」又は「OFF」の位置で施錠ができます。南京錠又はシリンダ錠は、お客様にてご用意願います。（施錠時もブレーカはトリップします。）
- ・扉の開閉について
扉を閉じるときは、図2のようにブレーカハンドルが操作金具の溝にはまっていることを確認してください。ハンドル・ブレーカとも「OFF」状態にて扉を閉じるとスムーズにはめ合わせができます。

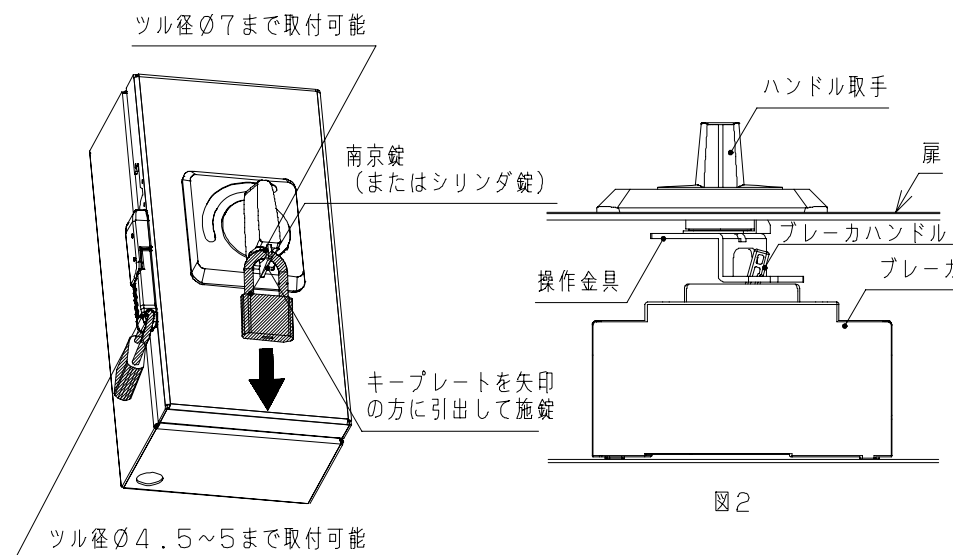


図2

図1